

## 水道工事標準仕様書新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p><b>○水道工事標準仕様書</b></p> <p><b>1.4.12 工事記録写真</b> 受注者は、工事記録写真を整理編集し、工事監督員が随時点検できるようにするとともに、工事完成時に提出する。工事記録写真の撮影は、<b>工事記録写真撮影要領</b>による。</p> <p><b>1.4.13 工事竣工図</b> 受注者は、工事竣工図を作成し、工事検査終了後速やかに提出する。工事竣工図の作成は、<b>工事竣工図作成要領</b>による。</p> <p><b>2.1.1 材料の規格</b> 工事に使用する材料は、設計図書または特記仕様書に品質、規格等を特に規定された場合を除き<b>日本産業規格</b>（以下「JIS」という）、日本水道協会規格（以下「JWWA」という）等に適合するものでなければならない。ただし、使用する材料が規格に無いものによっては、市場中等品以上のものを選定し資料を添付した「使用資材承諾願い」を工事監督員に提出し、承諾を得なければならない。</p>	<p><b>1.4.12 工事記録写真</b> 受注者は、工事記録写真を整理編集し、工事監督員が随時点検できるようにするとともに、工事完成時に提出する。工事記録写真の撮影は、水道工事施工要領による。</p> <p><b>1.4.13 工事竣工図</b> 受注者は、工事竣工図を作成し、工事検査終了後速やかに提出する。工事竣工図の作成は、水道工事施工要領による。</p> <p><b>2.1.1 材料の規格</b> 工事に使用する材料は、設計図書または特記仕様書に品質、規格等を特に規定された場合を除き日本工業規格（以下「JIS」という）、日本水道協会規格（以下「JWWA」という）等に適合するものでなければならない。ただし、使用する材料が規格に無いものによっては、市場中等品以上のものを選定し資料を添付した「使用資材承諾願い」を工事監督員に提出し、承諾を得なければならない。</p>	<p>14</p> <p>15</p> <p>16</p>

水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>2.2.1 鋳鉄管            (12) JDP A G1042-2-2017            水道用NS形ダクタイル鋳鉄管（E種管）</p> <p>3.1.5 工事関係書類の整備</p> <p>2. 受注者は、作業内容及び進捗度等を正確に記入した工事旬報を10日程度ごとに工事監督員に報告するものとし、電子メールによる提出を標準とする。なお工事旬報の記入に当たっては、「工事旬報記載要領」に従い作成しなければならない。</p> <p>4. 「工事記録写真撮影要領」に記載されていない事項であっても、工事監督員が必要と認め指示するときは、その指示に従わなければならない。</p> <p>4.1.2 管の据付            削除</p>	<p>2. 受注者は、作業内容及び進捗度等を正確に記入した工事旬報を10日ごとに工事監督員に提出することとする。なお工事旬報の記入に当たっては、「工事旬報記載要領」に従い作成しなければならない。</p> <p>4. 「工事現場写真撮影要領」に記載されていない事項であっても、工事監督員が必要と認め指示するときは、その指示に従わなければならない。</p> <p>4.1.2 管の据付</p> <p>3. 管の鋳出・表示等は、上向きにして据付なければならない。</p>	<p>17</p> <p>22</p> <p>24</p>

水道工事施工要領新旧対照表

改訂	現行	現行頁
<p><b>4.1.7 管の切断</b></p> <p>14. 配水用ポリエチレン管の切断は、所定のパイプカッターを用い、管軸が直角になるように切断する。また、高速砥石タイプの切断工具は、熱で管切断面が変形する恐れがあるため、使用してはならない。</p> <p><b>4.1.15 NS形（E種管）継手の接合</b></p> <p>直管の接合</p> <p>1. 接合に先立ち、受口内面及び挿口端から 30cm 程度の部分の外面に付着している砂、油、その他の異物は、完全に取り除かなければならない。</p> <p>2. ロックリングとロックリングホルダの確認を行い、ゴム輪を清掃し受口内面の所定の位置に装着する。</p> <p>3. 滑剤はゴム輪の内面および挿口外面テーパ部から白線までの範囲にむらなく塗布する。滑剤は必ず専用のもの（ダクティル管継手用滑剤）を使用しなければならない。</p>		<p>26</p> <p>29</p>

## 水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p style="color: red;">4. 管をクレーンなどで吊った状態にして挿口を受口に預け、接合器具をセットする。</p> <p style="color: red;">5. レバーホイスト、スリングベルトをセットし、レバーホイストを操作しゆっくりと挿口を受口に挿入する。その場合、挿口外面に表示してある2本の線の白線のうち挿口側の白線が受口端面の位置にくるように挿入する。</p> <p style="color: red;">6. ゴム輪の位置の確認は、受口と挿口の隙間に薄板ゲージを差し込み、その入り込み量を測定する。ゲージ入り込み量が他の部分に比べて異常に大きい場合は、継手を解体して点検する必要がある。再度接合するときは、ゴム輪は新しいものと交換する。</p> <p style="color: red;">異形管の接合</p> <p style="color: red;">1. 接合に先立ち、受口内面及び挿口外面に付着している砂、油、その他の異物は、完全に除去しなければならない。</p> <p style="color: red;">2. 押輪及びゴム輪を挿口に預け入れ、受口内面、挿口外面、ゴム輪外面に滑材を塗布する。</p>		

水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>3. 挿口端面と受口奥部が当たるまで挿入し、ストッパを取り外す。</p> <p>4. 挿口突部がロックリングを通過しているかを確認の上、ゴム輪、押輪をT頭ボルト・ナットで締め付け、押輪の施工管理突部と受口端面がメタルタッチになっていることを確認する。</p> <p>N-Link の取り付け</p> <p>1. 押しボルトを所定の締め付けトルク 100N・m で締め付けて切管を固定する。</p> <p>2. 異形管部の取り付けの際は、前項による異形管の接合完了後、押しボルトを所定の締め付けトルク 100N・m で締め付けて固定する。</p> <p>4.1.19 ポリエチレン管（冷間）接合</p> <p>4.1.20 ポリエチレン管（融着）接合</p> <p>1. 管に傷がないかを点検し付着している土や汚れをペーパータオルまたは清潔なウエスで清掃する。</p>	<p>4.1.18 ポリエチレン管の接合</p>	<p>31</p>

## 水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>2. 管端から既定の差込長さの位置に標線を記入し切削長さをマーキングする。</p> <p>3. スクレーパを用いて管端から標線まで管表面を切削する。</p> <p>4. 管の切削面と継手の内部全体をエタノールまたはアセトンを浸み込ませたペーパータオルで清掃する。</p> <p>5. コントローラの電源スイッチをいれ、継手の端子に出力ケーブルを接続しバーコードリーダで融着データを読み込む。</p> <p>7. 融着接合完了後インジケータが左右とも隆起していることを確認し、通電終了時刻に冷却時間を加算したクランプ取り外し可能時刻を継手に記入し、完了後クランプを取り外す。</p>		

水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>4.2.3 広報</p> <p>(6) 配布チラシの様式は<b>断水計画書作成要領</b>によること。</p> <p>5.1.5 排泥管据付け</p> <p>1. 排泥管の<b>接続先は雨水マンホールを基本とするが、接続が適切でない場合において合流マンホールや汚水マンホールまたは雨水枡へ接続する。</b>接続箇所については工事監督員へ事前に確認することとし、取り付ける施設の構造及び強度に影響を及ぼさないよう考慮しなければならない。吐出口については地表から120cm程度とするが、逆流防止のため必ず高水位より高く平行に設置し、容易に採水を行えるよう5cm程度、管を露出させること。また、排水時に排水路等の流向を阻害または著しい水跳ねがおきないようにし、状況によってはキャップ等を設置しなければならない。</p>	<p>(6) 配布チラシの様式は水道工事施工要領によること。</p> <p>5.1.5 排泥管据付け</p> <p>1. 排泥管の据付け箇所は、原則として工事監督員へ事前に確認することとし、汚水マンホールや排水路等に取り付ける。また、取り付ける施設の構造及び強度に影響を及ぼさないよう考慮しなければならない。吐出口については地表から120cm程度とするが、逆流防止のため必ず高水位より高く平行に設置し、容易に採水を行えるよう5cm程度、管を露出させること。また、排水時に排水路等の流向を阻害または著しい水跳ねがおきないようにし、状況によってはキャップ等を設置しなければならない</p>	<p>32</p> <p>34</p>

## 水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p><b>6.1.3 埋戻し及び転圧</b></p> <p>2. 埋戻し土の転圧は掘削床面より構造物の直上 30 cmまでは人力または機械投入とし、土塊を切り碎き、構造物の周り等に空隙のできぬよう均一に敷均し、一層の厚さが 30 cmを越えない範囲で、また路床部の埋戻しについては 20cm 以内とし、一層ごとにタンパーもしくは木蛸等により入念に締め固め、必要に応じて水締めを行わなければならない。なお、機械で投入する場合の落下高は、構造物の直上 30 cmを越え、150 cmまでは、50 cm以下とし、それを越える部分は、150 cmまでとする。<b>なお、管に直接土砂が当たらないよう当て板などの処置を行うこと。</b></p> <p>3. 埋戻し及び盛土は、設計図書で指定する材料を使用し、ゴミその他有害物を含んではならない。 <b>また、管上 20 cmまでは特に良質な発生土または砂を用いて、管に直接レキ等が接しないようにすること。</b></p>	<p>2. 埋戻し土の転圧は掘削床面より構造物の直上 30 cmまでは人力または機械投入とし、土塊を切り碎き、構造物の周り等に空隙のできぬよう均一に敷均し、一層の厚さが 30 cmを越えない範囲で、また路床部の埋戻しについては 20cm 以内とし、一層ごとにタンパーもしくは木蛸等により入念に締め固め、必要に応じて水締めを行わなければならない。なお、機械で投入する場合の落下高は、構造物の直上 30 cmを越え、150 cmまでは、50 cm以下とし、それを越える部分は、150 cmまでとする。</p> <p>3. 埋戻し及び盛土は、設計図書で指定する材料を使用し、ゴミその他有害物を含んではならない。</p>	36



## 水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>○工事旬報記載要領</p> <p>1. 総則</p> <p>(1) 10 日程度における施工予定及び出来高を明確に記載すること。</p> <p>2. 提出期限</p> <p>(1) 工事旬報は工事着手から 10 日間程度の施工予定及び実績を記載し、電子メールによる提出を標準とする。</p> <p>3. 様式</p> <p>工事旬報等の様式については「様式-上下水道 1」とする。</p>	<p>1. 総則</p> <p>(1) 10 日間における施工予定及び出来高を明確に記載すること。</p> <p>2. 提出期限</p> <p>(1) 工事旬報は工事着手から 10 日間の施工予定及び実績を記載し、提出することを原則とする。</p> <p>2. 様式</p> <p>工事旬報等の様式については「土木工事共通仕様書」に準じることとし、統括監督員、主任監督員欄を課長、係長、担当欄に変更する。</p>	36

## 水道工事施工要領新旧対照表

改 訂	現 行	現行頁
<p>○弁類台帳作成基準・施設設置要領</p> <p>2. オフセット測定基準</p> <p style="color: red;">(4) 雨水樹を基準とする場合は、雨水樹の四隅より該当弁筐中心部までの距離とする。</p> <p>○標準図集</p> <p style="color: red;">北見市型弁筐標準図の板を敷砂利へ変更する。</p> <p style="color: red;">(NS 形 E 種管を使用すると板が支障となりボルトの締付が行えないため。)</p> <p>○北見市上下水道局工事様式集</p> <p style="color: red;">追記する</p>		